



ふたご座流星群 14日ピーク

冬の夜空を彩る「ふたご座流星群」が14日(水)に出現のピークを迎えるそうです。ふたご座流星群は、1月のしぶんぎ座流星群、8月のペルセウス座流星群とともに「3大流星群」と呼ばれています。この時期、ふたご座の2等星カストル付近を放射点(流星が飛び出す中心となる点)とする「ふたご座流星群」の活動が始まっているそうです。今年のピークは14日(水)午後10時頃で、この前後には1時間当たりなんと数十個の流星が見られるそうです。流星は、太陽系内を回っている小さなチリ(数ミリ程度)が地球の大気に衝突して発行する現象です。(私は小さい頃は彗星の様なものが地球の外に近付いてくるから見えるのだと勘違いしていました)

流星群は、彗星などが放出した帯状に広がったチリが次々と地球の大気に衝突してくるため、ある一点(放射点)を中心に四方八方に流星が流れるように見える現象です。ふたご座流星群のチリを放出する天体は、「ファエトン」という小惑星だそうです。このファエトンは、彗星のように楕円形の軌道を持ち、衝突する可能性もあるほど地球に近づく特異な小惑星として注目されているそうです。太陽に近づくと、熱で表面にひび割れができ、太陽から離れると、再び冷えるということを繰り返し、ひび割れでできたチリが放出され、地球の軌道に近付いたとき、地球に降り注ぎ、大気で燃え尽きて流星として見えると考えられているそうです。

ふたご座流星群の観察は、14日夜がおすすりめです。ピーク時の午後10時ごろは、明るい月が昇ってくるので、観察するなら、放射点が昇ってくる午後7時から月の出前がベストだそうです。なお、月の出後も月と反対方向を観察するなど工夫をすれば、流星が見つかるそうです。14日前後も見えるそうですが、数はピーク時の数分の一(一時間当たり10個程度)だそうです。

5年生は明日13日から15日まで阿蘇で宿泊教室となります。14日は、阿蘇という絶好の観測フィールドにいます。

さあ、注意深く夜空を見上げることで、いくつ流れ星を観ることができのでしょうか?あとは、天候次第となります。寒い冬の夜となりますので、風邪などひかないように防寒には十分注意して観察しましょう。

